

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 国立大学法人 三重大学

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 (大学)

住所 〒514-8507
三重県津市栗真町屋町 1577

E-mail : jimukyoku@gecer.mie-u.ac.jp

Website : http://www.mie-u.ac.jp

児童生徒数：男子 4683 名 女子 2717 名 合計 7400 名
 児童・生徒の年齢 18 歳～28 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

三重大学は全学的な取り組みとして、2009年8月に日本の総合大学初となるユネスコスクールに加盟、ASPUnivNetのメンバーとして三重県のユネスコスクール活動の活性化に貢献しています。大学自身も様々な持続発展教育（ESD）活動を行うことで、大学の社会的責任（USR）を果たし、これらの活動を通してグローバル人材を育成しています。

ESD活動

1. 環境教育活動

環境教育については、2007年に国立総合大学初となるISO14001の全学部一括認証を取得し、環境ISO学生委員会を中心として、生協店舗によるレジ袋削減(Reduce)、放置自転車や家電製品の再使用(Reuse)、古紙回収によるトイレトーパー化(Recycle)などの3R活動を積極的に展開し、アジア太平洋大学コンソーシアム(9か国33大学)を組織して環境教育を進めています。その成果として2013年4月には第22回地球環境大賞文部科学大臣賞、12月に第5回エコ大学ランキング総合1位を受賞しました。さらに環境ISO学生委員会が4月に第1回みえ環境大賞(環境活動部門)を、12月に第14回中部の未来創造大賞優秀賞及び特別賞中日新聞社賞を受賞しました。

2. エネルギー教育活動

環境・情報科学館で行われた環境ISO学生委員会主催による七夕イベントは、午後8時から2時間消灯し、キャンドルの光の中で環境やエネルギーの問題についてみんなで考える機会となりました。笹飾りには学生・教職員が環境やエコについての願いを書き、広場にはCO2排出量約30%OFFのキャンドルで「MIE-U ECO」の文字を作成しました。

3. 防災教育活動

南海トラフ沿いの巨大地震発生が危惧されている現在において、本学は伊勢湾の水際に位置しているため津波・液状化による多大な被害が想定されます。そこで、学生・教職員等の地震・津波災害に対する心構え及び防災意識の向上を図ることを主な目的として、防災啓発研修会などを行っています。

4. 生物多様性保全活動

三重県内の小中高大学を対象とする実践的生物多様性教育を実施するとともに、本学に隣接する町屋海岸において、地元小中学校、地域住民、企業、自治体からなる認識共同体を形成し、環境教育・環境再生活動を行っています。2006年から環境ISO学生委員会と地元の住民で組織する町屋百人衆が中心となり実施している海岸清掃は2013年11月で、38回を数えます。清掃後には毎回、海岸植物観察会を行い、参加者や学生たちの環境に対する意識を高めています。

5. 多文化共生教育活動

2013年6月には外務省の青少年交流事業(JENESYS2.0)の一環で、東南アジア10か国の学生30人が三重大学を訪れ、三重大学生48人と交流しました。折り紙や日本の食文化など6つのテーマでワークショップを行い、日本文化に触れる機会となりました。

6. その他の活動

2013年10月と11月に、三重県南部の熊野市のみかん農家でみかん栽培に関する作業を通して地元住民と交流する「MVP」(みかんボランティアプロジェクト)

ト)に参加をしました。また、世界遺産「熊野古道」の意識を交換し合う「熊野古道ツアー」や世界遺産登録を目指して日本・韓国の海女文化を両国共同で世界に発信することも計画中です。

ユネスコスクール支援

ユネスコスクールは三重大学をはじめ、県内の小・中・高校の16校が加盟しています。現在は大学生向けに実践している教育のほか、地域の教育機関と連携し様々な支援を展開しています。

1. ユネスコスクール加盟校・申請校を中心とする近隣小・中学校への支援活動

地域の教育機関等と連携し、環境教育、キャリア教育の推進と外国籍学生の学習支援に取り組んでいます。8月には金沢都ホテルにおいて開催された東海・北陸ユネスコスクール交流会に県内のユネスコスクール3校と参加をしました。8月、韓国の水原市で開催された「アジア太平洋青少年環境フォーラム2013」に、三重県内のユネスコスクール加盟中学校から4名の生徒が参加し、自動車公害について発表をしました。9月には、三重大学の担当県である長野県のユネスコスクール加盟希望校の申請書類作成の支援を行いました。また2014年2月には、三重県内の私立中高一貫校のユネスコスクール加盟申請書類作成の支援を行いました。

2. 三重大学のユネスコスクール活動

①「海の博物館と海女小屋見学会」の実施(平成25年度 日本/ユネスコパートナーシップ事業)

平成26年1月11日(土)にESDの基本的な考え方“世界遺産や地域文化等に関する教育”について三重県特有の海女文化の魅力を理解し、その文化を次世代まで継続していく担い手を育成することを目的とし、海の博物館と海女小屋見学会を行いました。

参加者は、朴理事・副学長と三重大学ユネスコスクール学生委員会、留学生、ユネスコスクール委員会のメンバー等、43名が参加しました。

最初に鳥羽佐田浜港から定期船で答志島和具港に上陸し、中部電力の方から答志小学校校内にある中部電力の海底ケーブルの視察、漁師町の細い通り、答志島の海女さんが実際に使用している海女小屋の見学や海女さんの生活の話を聞き、また、海の博物館では、海女の生活等のビデオの鑑賞や海の役割等の講演がありました。その後、参加者は各自、自分の興味あるところから館内の展示を見て歩き、新しい発見や感動があり、充実した楽しい見学会となりました。

②ユネスコスクール研修会/シンポジウム2013の開催

平成26年2月15日、三重大学ユネスコスクール研修会/シンポジウム2013が環境・情報科学館1階ホールで開催されました。参加者は、内田淳正学長と大学の教職員、学生、留学生や小学校、中学校、高等学校の教育関係者等約80名が出席しました。シンポジウムは、内田淳正学長の挨拶に続き、朴恵淑理事・副学長が三重大学の活動及び「ESD in 三重 2014」に向けての報告を行いました。記念講演では海の博物館長石原義剛氏が「三重が誇る海女文化」を、続いて三重大学客員教授の川口祐二氏が「海女、このすばらしき人たち」と題して、それぞれ素晴らしい講演が行われました。休憩の後、県内ユネスコスクール加盟の学校の代表者による事例報告や三重大学ユネスコスクール学生委員会・国際交流センター

留学生による活動報告が行われるなど、ESD のさらなる発展について考えるシンポジウムとなりました。

2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）